

TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

街を走る自転車利用者の行動を観察する

DATA 基礎情報

交通事故に関係した自転車の約7割は何らかの違反をしている

道路交通法が改正され、昨年11月1日から自転車を運転している時(停止している場合を除く)にスマートフォン(以下、スマホ)で通話したり、画面を注視したりする、いわゆる「ながらスマホ(ながら運転)」の罰則が強化された。「ながらスマホ」をした場合は、6ヵ月以下の懲役または10万円以下の罰金。「ながらスマホ」により交通事故を起こすなど交通の危険を生じさせた場合は、1年以下の懲役または30万円以下の罰金となる。

さらに、自転車の交通違反を交通反則通告制度(青切符)の対象にする改正道路交通法も2026年5月までに施行される予定だ。自転車利用者は、これまで以上に車両の運転者としての自覚が求められることになる。2023年の自転車の法令違反別交通事故件数をみると、自転車(第1・第2当事者*)の約7割が安全不確認や一時不停止、信号無視など何らかの違反をしている。今回は、自転車利用者が様々な交通ルールを遵守しているか、神奈川県と東京都で観察した。

*第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

WATCHING 観察

一時不停止や信号無視の自転車が目立つ

観察場所Aは神奈川県川崎市にある信号機のない交差点。観察を行った朝の通勤時間帯は、近くにある小田急電鉄「登戸駅」方面に向かう自転車が多かった。観察時間中に、ここを通行した自転車は334台。「ながらスマホ」をしていた自転車は4台(1.2%)、イヤホン(ヘッドホン)を使用していた自転車は9台(2.7%)いた。

観察場所Aで目立った違反は一時不停止。「止まれ」の標識がある場所(2カ所)を通過したのは226台すべてが停止線の手前で一時停止をしていなかった。停止線を越えた先で止まった自転車は33台いたが、いずれも交差する優先道路をクルマやバイクが走っていたため、止まらざるを得ない状況だった。

観察場所Bは東京都江戸川区の信号機のあるT字路の交差点。観察を行った夕方の時間帯は、付近にあるスーパーやドラッグストアに向かう自転車がかった。観察時間中に、ここを通行した自転車は843台。「ながらスマホ」をしていた自転車は7台(0.8%)、イヤホンを使用していた自転車は19台(2.3%)いた。観察場所Bで目立った違反は信号無視。特に、突き当たり路を右に見ながら直線路を通行する自転車(写真参照)が赤信号で交差点に進入し、そのまま直進するケースが多かった。観察場所Bでは日没後に自転車のライトの点灯状況も観察。日没後(16:30~17:30)に通行していた597台中49台(8.2%)が無灯火だった。周囲が暗くなると自動的に点灯するライトを装備した自転車が、無灯火は古い型と思われる自転車がほとんどだった。また、観察場所A、Bともにヘルメットを着用して運転した自転車利用者はわずかだった。



観察場所Bでは信号待ちでスマホを取り出し、発進後も使用を続けるケースが多かった

ADVICE アドバイス

交通ルールの遵守は自分自身や他者を守ることに繋がる

厳罰化された以降も「ながらスマホ」の自転車は少数だが存在している。「ながらスマホ」をすると、文字や画像を見ることに集中してしまい、他者の存在や信号を見落とす恐れがある。事故につながる危険な行為なので厳に慎んでほしい。また、イヤホン(ヘッドホン)を使用しながらの運転は厳罰化されていないものの、周囲の音が聞き取りにくくなり「ながらスマホ」同様に、たいへん危険である。観察場所Bでは、赤信号でも交差点に進入し、通過していく自転車が散見された。中に

は、前方の横断歩道を渡る歩行者や自転車もいた。親子で連なって走っている自転車では前を走る親が信号無視したため、後ろを走る子どももそれに付いていってしまうというケースがあった。親や周囲の大人が正しい行動を示さないと、子どもは交通ルールを守らなくなるだろう。

自転車利用者は車両を運転しているという自覚を持ち、交通ルールを守ってほしい。交通ルールの遵守は自分自身や他者を守ることに繋がる。一方、ドライバー・ライダーは、交通ルールを守らない自転車がいることを意識し、周囲にいる自転車の動きには十分に注意する必要がある。

観察結果

観察場所 A

神奈川県川崎市多摩区
小田急電鉄「登戸駅」付近
観察日 / 11月22日(金)
観察時間 / 8:00~9:00
天候 / 晴れ



観察時間中に停止線の手前で一時停止した自転車は1台もいなかった

●自転車の運転状況(台) 総台数334台(うち一時停止場所通過226台)

スマホ使用	イヤホン使用	一時不停止	車道の右側通行	二人乗り	ヘルメット非着用
4 1.2%	9 2.7%	226 100%	4 1.2%	1 0.3%	326 97.6%

*ヘルメットの着用状況は運転者のみを観察



スマホで通話しながら交差点を通過する自転車利用者



両耳にイヤホンを付けている自転車利用者



車道を右側通行する自転車



二人乗りをしている自転車

観察場所 B

東京都江戸川区
東京メトロ「西葛西駅」付近
観察日 / 11月28日(木)
観察時間 / 16:00~17:30
天候 / 晴れ



突き当たり路を右に見ながら直線路を通行する自転車が赤信号で交差点に進入

●自転車の運転状況(台) 総台数843台(うち日没後597台)

スマホ使用	イヤホン使用	信号無視	車道の右側通行	並進	ヘルメット非着用	無灯火
7 0.8%	19 2.3%	55 6.5%	6 0.7%	8 0.9%	827 98.1%	49 8.2%

*ヘルメットの着用状況は運転者のみを観察



赤信号で交差点に進入した自転車が横断歩道を渡る自転車と交錯



青信号に変わるまで停止している自転車



並進は中・高校生が乗る自転車がかった



日没後にライトを点灯させていない自転車(右)